

慶應義塾大学SFC研究所  
X.SDG Lab.



# 金融 x SDGs

2019年3月6日

Future Earth Tokyo Workshop on Finance

慶應義塾大学大学院教授

蟹江憲史

# 平成31年 SDGsの現状と課題

## 1. 次の一歩へ

- 企業：CSR（2016）→経営層（2017）→部課長クラス（2018）⇒⇒

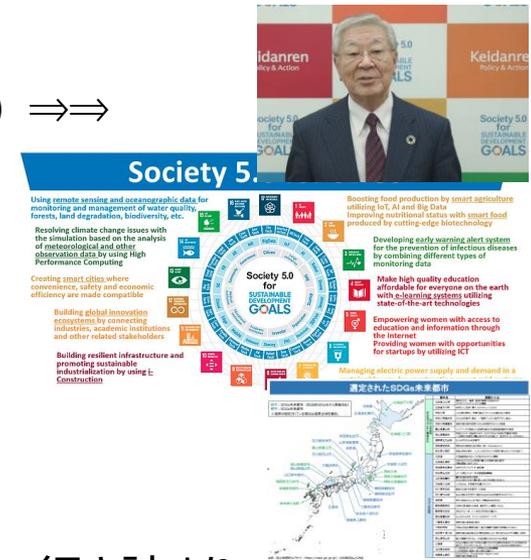
**2019年は大企業から中小企業へ**

- 省庁（外務省・内閣府・環境省→経産省・金融庁）⇒⇒

**2019年はG20と国連総会を契機にアクション創出へ**

- 教育・研究（中高生・大学（の経営））⇒⇒

**大学生は社会（SDGs）への貢献で就職先を選ぶ時代へ**



⇒ 「重要そう」「可能性がありそう」だが「何をどうやればいいのか？」で行き詰まり

⇒⇒ **本格的アクション創出へ**

## 2. 課題

- 認知向上：中小企業における認知向上はどうすればよいか？

⇒ **行政の役割と企業の「利益」をめぐる認識変化**

- バリューチェーンへのヒモ付け（でも新たなアクションは起こさない）を超えたアクション創出のための仕掛けをどうするか？

⇒ **企業価値の向上・中長期的尺度でのリターン向上へ**

⇒ **優良事例収集と共有・学習機会の創出**





# 『SDGsアクションプラン2019』のポイント

- 日本は、豊かで活力のある「**誰一人取り残さない**」社会を実現するため、一人ひとりの保護と能力強化に焦点を当てた「**人間の安全保障**」の理念に基づき、世界の「**国づくり**」と「**人づくり**」に貢献していく。
- 『SDGsアクションプラン2019』では、次の3本柱を中核とする日本の「SDGsモデル」に基づき、『SDGs実施指針』における8つの優先分野に総力を挙げて取り組むため、2019年におけるより具体化・拡大された政府の取組を盛り込んだ。
- 2019年の**G20サミット**、**TICAD7**、**初のSDGs首脳級会合**等に向けて、①国際社会の優先課題、②日本の経験・強み、③国内主要政策との連動を踏まえつつ、以下の分野において**国内実施・国際協力**の両面においてSDGsを推進。

## I. SDGsと連動する「Society 5.0」の推進

### 中小企業におけるSDGsの取組強化

- 大企業や業界団体に加え、中小企業に対してもSDGsの取組を強化。
- 「SDGs経営／ESG投資研究会」の開催等を通じて、『**SDGs経営イニシアティブ**』を推進。TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)の提言を踏まえ、企業の取組を促進。
- 『中小企業ビジネス支援事業』を通じた**途上国におけるSDGsビジネスの支援**。

### イノベーション(STI)の推進

- 統合イノベーション戦略推進会議下の「STI for SDGsタスクフォース」で、『**ロードマップ**』や**そのための「基本指針」**を策定。「**STI for SDGsプラットフォーム**」の立ち上げも準備。
- **STIフォーラム**やG20関連会合を通じ、国際社会における議論を促進。

## II. SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり

### SDGsを原動力とした地方創生

- **SDGs未来都市の選定**、**地方創生SDGs官民連携プラットフォーム**等を推進。
- **2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会**、**2025年大阪・関西万博**を通じたSDGsの推進。
- ICT等**先端技術を活用した地域の活性化**。
- **スマート農林水産業**の推進。

### 強靱かつ環境に優しい循環型社会の構築

- **国内外における防災の主流化**の推進。
- **質の高いインフラ**を通じて連結性を強化。
- **海洋プラスチックごみ対策**を含む持続可能な海洋環境の構築。
- **地域循環共生圏づくり**の推進。
- 日本の技術・経験を活かした**気候変動対策**への貢献。
- **省エネ・再エネ等**の推進。

## III. SDGsの担い手として次世代・女性のエンパワーメント

### 次世代・女性のエンパワーメント

- 「**次世代のSDGs推進プラットフォーム**」を始動し、国内外における具体的な取組を推進。
- 3月に同時開催する**WAW!(国際女性会議)**と**W20(G20エンゲージメント・グループ会合)**において女性活躍のための方途について議論。

### 教育・保健分野における取組

- 国内で、幼児教育から高等教育まであらゆる段階において「**質の高い教育**」を実施。
- G20関連会合やTICAD7を通じ、日本の経験を共有しつつ、**国際教育協力**や**UHC(ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ)**を推進。

## 展開とフォローアップ

- 日本のSDGsモデルを、**東南アジア・アフリカを重点地域**としつつ、国際社会に展開していく。
- 国際的な指標等に基づいて、これまでの取組をレビューし、**2019年後半に『SDGs実施指針』を改訂**。

# SDGsと超学際 (transdisciplinarity) 研究

## Future Earth: 持続可能な地球社会のための知を生み出す国際的研究連携のプラットフォーム

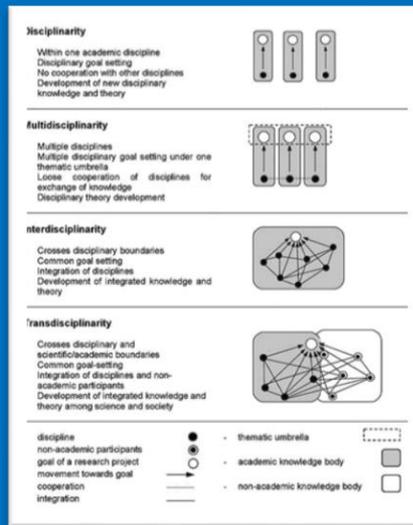
- 科学の統合 (人文社会科学・自然科学の連携・統合)
- 社会との知の共創と共有による複合的課題解決 (社会のステークホルダーとの超学際的連携・協働)

Co-design, Co-production, Co-delivery



futureearth  
research for global sustainability

研究課題の設定、  
アウトプットの創出、  
実現プロセスで研  
究者と政策担当  
者・ステークホル  
ダーが協働



Introductions to the Process of The Open Working Group on Sustainable Development Goals

1. The Rio+20 outcome document, *The Future We Want*, inter alia, set out a mandate to establish an Open Working Group to develop a set of sustainable development goals for consideration and appropriate action by the General Assembly at its 66<sup>th</sup> session. It also provided the basis for their conceptualization. The Rio outcome gave the mandate that the SDGs should be consistent with and integrated into the UN development agenda beyond 2015.

2. Poverty eradication is the greatest global challenge facing the world today and an indispensable requirement for sustainable development. The Rio+20 outcome reiterated the commitment to freeing humanity from poverty and hunger as a matter of urgency.

3. Poverty eradication, changing unsustainable and promoting sustainable patterns of consumption and production and protecting and managing the natural resource base of economic and social development are the overarching objectives of and essential requirements for sustainable development.

4. People are at the centre of sustainable development and, in this regard, Rio+20 promised to strive for a world that is just, equitable and inclusive, and committed to work together to promote sustained and inclusive economic growth, social development and environmental protection and thereby to benefit all, in particular the children of the world, youth and future generations of the world without distinction of any kind such as age, sex, disability, culture, race, ethnicity, origin, migratory status, religion, economic or other status.

5. The OWC also reaffirmed all the principles of the Rio Declaration on Environment and Development, including, inter alia, the principle of common but differentiated responsibilities, as set out in principle 7 thereof.

6. It also reaffirmed the commitment to fully implement the Rio Declaration, Agenda 21, the Programme for the Further Implementation of Agenda 21, the Plan of Implementation of the World Summit on Sustainable Development (Johannesburg Plan of Implementation) and the Johannesburg Declaration on Sustainable Development, the Programme of Action for the Sustainable Development of Small Island Developing States (SIDS Action Programme of Action) and the Mauritius Strategy for the Further Implementation of the Programme of Action for the Sustainable Development of Small Island Developing States. It also reaffirmed the commitment to the full implementation of the Programme of Action for the Least Developed Countries for the Decade 2011-2020 (Istanbul Programme



# SDGs – 持続可能な開発目標 ～ 2030年の世界の姿 ～

2030年への  
世界目標

17目標  
169ターゲット  
232 (244) 指標

全ての国・企  
業等の主体に  
普遍的に適用

進捗レビュー  
(法的義務なし)



<b>1</b> 貧困をなくそう 	<b>2</b> 飢餓をゼロに 	<b>3</b> すべての人に健康と福祉を 	<b>4</b> 質の高い教育をみんなに 	<b>5</b> ジェンダー平等を実現しよう 	<b>6</b> 安全な水とトイレを世界中に 
<b>7</b> エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	<b>8</b> 働きがいも経済成長も 	<b>9</b> 産業と技術革新の基盤をつくろう 	<b>10</b> 人や国の不平等をなくそう 	<b>11</b> 住み続けられるまちづくりを 	<b>12</b> つくる責任 つかう責任 
<b>13</b> 気候変動に具体的な対策を 	<b>14</b> 海の豊かさを守ろう 	<b>15</b> 陸の豊かさも守ろう 	<b>16</b> 平和と公正をすべての人に 	<b>17</b> パートナーシップで目標を達成しよう 	<b>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS</b> 2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

世界の革新

だれ一人取り残されない



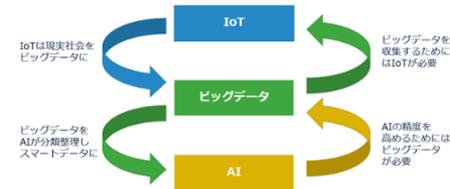
# SDGsの特徴: 3つの新しさ

1. 新しい仕組み：ルール作りではなく目標作りからはじまるガバナンス
  - － 野心レベルの提示からスタート→ バックキャスティング
  - － 実施メカニズム・法的拘束力なし→ 各主体が自由に・テクノロジーも活用（イノベーション）
  - － 進捗評価のみ → 測る（ビッグデータの活用）

2. 新しいものさし：新たな測り方



3. 新しいアプローチ：17の視点から総合的に検討



# TOYOTA ENVIRONMENTAL CHALLENGE 2050



「ゼロの世界」ととどまらない「プラスの世界」を目指すため、トヨタは成し遂げべき6つのチャレンジを掲げます。気候変動や資源・水の循環など、どのチャレンジも困難なものばかりですが、2050年に向けて、社会とともに持続的に発展できるよう取り組みを着実に進めていきます。

### CHALLENGE 1

#### 新車CO<sub>2</sub>ゼロチャレンジ



### CHALLENGE 2

#### ライフサイクルCO<sub>2</sub>ゼロチャレンジ



世界中で地球温暖化が進んでいます。トヨタは新車のCO<sub>2</sub>を2050年に2010年比90%削減を目指し、次世代車開発を促進、普及を加速していきます。

トヨタはクルマの素材製造から部品・車両製造、走行、廃棄までのすべての工程をふくむライフサイクル全体で、CO<sub>2</sub>ゼロに近づけることを目指しています。

### CHALLENGE 3

#### 工場CO<sub>2</sub>ゼロチャレンジ



### CHALLENGE 4

#### 水環境インパクト最小化チャレンジ



トヨタは生産工場ですべてのCO<sub>2</sub>削減技術の開発・導入と日常カイゼンと「再生エネルギー活用と水素利用」の両輪によりCO<sub>2</sub>ゼロを目指していきます。

クルマの製造では塗装や鋳造工程などで水を使用します。使う量を徹底的に減らし、使った水も徹底的にきれいにして使うことで、環境への影響を最小限にすることを目指しています。

### CHALLENGE 5

#### 循環型社会・システム構築チャレンジ



### CHALLENGE 6

#### 人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ



トヨタは40年前から資源循環に取り組んでいます。今後はその蓄積された技術・システムを世界へと広げ、グローバルな循環型社会の構築に貢献していきます。

トヨタは地域の豊かな森や自然を守る取り組みを続けています。自然と人の共生を目指し、活動を地域とつなぎ、世界へつなげ、未来にもつなげていきます。

## 6つのチャレンジの実績・進捗と今後の取り組み

トヨタ環境チャレンジ2050	
 <b>CHALLENGE 1</b> CO <sub>2</sub> 0 新車CO <sub>2</sub> ゼロ	<b>2050年グローバル新車平均走行時CO<sub>2</sub>排出量の90%削減(2010年比)を目指す</b> <b>【取り組み】</b> 「省エネルギー」と「燃料多様化への対応」の観点から次世代車普及のさらなる加速を図る <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイブリッド車、プラグインハイブリッド車のグローバルでの普及を加速</li> <li>・燃料電池自動車、電気自動車などのZEV*の普及を加速</li> </ul> *1 ZEV (Zero Emission Vehicle) : 走行時にCO <sub>2</sub> を一切出さないクルマ
 <b>CHALLENGE 2</b> CO <sub>2</sub> 0 ライフサイクルCO <sub>2</sub> ゼロ	<b>ライフサイクル全体でのCO<sub>2</sub>排出ゼロを目指す</b> <b>【取り組み】</b> 材料製造から部品・車両製造、走行、廃棄までのライフサイクル全体でCO <sub>2</sub> を削減 <ul style="list-style-type: none"> <li>・低CO<sub>2</sub>材料の開発・使用拡大など、材料製造時のCO<sub>2</sub>削減</li> <li>・リサイクル材料の使用拡大など、環境配慮を推進</li> </ul>
 <b>CHALLENGE 3</b> CO <sub>2</sub> 0 工場CO <sub>2</sub> ゼロ	<b>2050年グローバル工場CO<sub>2</sub>排出ゼロを目指す</b> <b>【取り組み】</b> 生産工場ですべてのCO <sub>2</sub> 削減技術の開発・導入と日常改善と「再生可能エネルギー活用と水素利用」を推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・工程のシンプル・スリム化、革新的な省エネを進め、新設工場での台当たりCO<sub>2</sub>排出を2030年には3分の1(2001年比)を目指す</li> <li>・2020年ごろを目指して田原工場に風力発電を設置するなど、再生エネを活用</li> </ul>
 <b>CHALLENGE 4</b> 水環境インパクト最小化	<b>各国地域事情に応じた水使用量の最小化と排水の管理</b> <b>【取り組み】</b> 水量と水質の2つの側面から活動を推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産工程内での水使用量削減はもとより、雨水利用による工業用水使用量の削減や水の再利用率向上</li> <li>・厳しい水質基準で排水の水質を管理し、自然にとって良い水質で地域に還することで、地域環境に貢献</li> </ul>
 <b>CHALLENGE 5</b> 循環型社会・システム構築	<b>日本で培った「適正処理」やリサイクルの技術・システムのグローバル展開を目指す</b> <b>【取り組み】</b> 「エコな素材を使う」「部品を長く使う」「リサイクル技術の開発」「廃棄されるクルマからクルマをつくる」の4本柱で、循環型社会の実現を目指す <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年から、世界展開に向けた2つのプロジェクトを開始</li> <li>・Toyota Global 100 Dismantlers*2 Project</li> <li>・Toyota Global Car-to-Car Recycle Project</li> </ul> *2 Dismantlers (ディスマンタラーズ) : フルマなどの解体業者
 <b>CHALLENGE 6</b> 人と自然が共生する未来づくりへ	<b>自然保全活動の輪を地域・世界とつなぎ、そして未来へつなぐ</b> <b>【取り組み】</b> 「自然共生活動」「環境活動助成」「環境教育」の3つの柱の自然保全活動の充実を図る <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年から3つの「つなぐ」プロジェクトを展開</li> <li>・地域をつなぐ「Toyota Green Wave Project」</li> <li>・世界とつなぐ「Toyota Today for Tomorrow Project」</li> <li>・未来へつなぐ「Toyota ESD*3 Project」</li> </ul> *3 ESD (Education for Sustainable Development) : 持続可能な開発のための教育

トヨタ環境チャレンジ2050に関連する主なSDGs:





# 自治体SDGsモデル事業の例

北海道下川町

## SDGsパートナーシップによる良質な暮らし創造実践事業

- ICTやIoTを活用した伐採・造林から加工流通林業のシームレス産業化、健康省エネ住宅の主流化、除雪体制や災害対応、森林バイオマスを中心とした再生可能エネルギーの利用拡大等の事業について、SDGsパートナーシップセンターを構築・活用し、各側面における相乗効果を発揮しながら推進する。

### <取組課題>

人材育成と先端技術導入による  
収益向上と地消地産の循環型経済

## 経済

循環型経済

人材確保、  
生産性

- 林業の川上～川下のシームレス産業化
- 農産物の地域循環型流通
- 地域内経済循環を促すポイントシステム導入
- 多様な人材登用、生産効率向上に向けた先端技術導入実証



林業のシームレス産業化



一の橋バイオビレッジ

### <取組課題>

森林バイオマスを中心とした脱炭素社会

脱炭素

ゼロエミッション

- 森林バイオマス利用拡大
- 一の橋バイオビレッジ脱炭素コミュニティ
- 省エネ家電レンタルシステム構築
- ゼロエミッションとエシカル消費促進

## 環境

### <取組課題>

誰もが希望を持ちながら健康で  
安心して暮らせる社会条件整備

## 社会

住まい

安心・安心

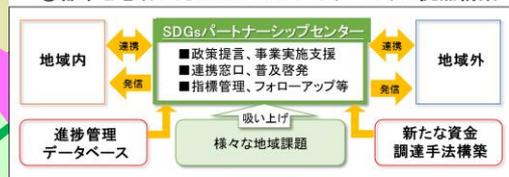
人材育成

- 居住環境計画、健康省エネ住宅の推進
- 医療介護福祉連携強化、子育て支援
- 除雪システム高効率化、レジリエンス強化
- 未来人材育成、町民参加推進

三側面をつなぐ統合的取組  
①都市と地域のためのSDGsパートナーシップ拠点構築  
②一の橋集落における多様な地域人材登用による産業創出

SDGsパートナーシップセンターにより内外の主体が連携し、地域課題の解決を目指す。

①都市と地域のためのSDGsパートナーシップ拠点構築



実践の場

②一の橋集落における多様な地域人材登用による産業創出



# SDGsに取り組む意義

- 活動のLegitimacy（正当性）や公共性（への貢献）を示すことができる
  - 企業にとってのメリット
  - 持続不可能な活動に対抗するための「外圧」として利用できる
- SDGsは共通言語
  - 異なるステークホルダーとの協働・連携につながる
  - 多様な国で、発展に持続的に貢献出来ることを示せる（開発途上国の開発戦略への結びつけもやりやすくなり、市場開拓にもつながる）
  - 目標によるタグ付け（同じ目標への活動を集める）、ベストプラクティスや課題の共有で、課題解決のスケールアップや連携を可能にする



# SDGs実現への行動をすすめる発想（企業・自治体）

1. SDGsは2030年の世界のカたち
  - 現状とのギャップこそがビジネスチャンス
  - 未来を先取りすることでメリットを：将来の標準を先取り
  - 17の視点へと視野を広げることでチャンスも拡大
2. 中長期経営計画/自治体総合計画／基本計画への反映
  - SDGs課題の解決が中長期的に社会的要求の高い課題
3. リスクへの対応
  - マネジメントリスク・レピュテーションリスク
4. 商品・製品・市場の開拓
5. 投資を呼び込む
  - サステイナブル投資が急増傾向
6. SDGsリーディングカンパニー・自治体としてのブランディング・宣伝効果
  - 2017年日本政府がレビュー報告、2019年は国連での首脳級レビュー
7. 指標の設定
  - 社内→業界→世界的認証／標準化制度構築
  - 表彰や優良事例／トップランナー制度による誘導

## 価値創造サイクル

ANAグループが取り組むべき「重要課題」を特定し、  
事業の推進役となる人財を活かして4つの強みを最大限に引き出しながら、  
中期的な成長戦略を推進しています。  
このサイクルを通して社会的・経済的価値を同時に創造し、成長し続けることで、  
「持続可能な開発目標 (SDGs)」にも貢献していきます。

持続的な  
企業価値向上



# 大和ハウス工業

エンドレス グリーン プログラム 2018		環境長期ビジョン“Challenge ZERO 2055”	
管理指標	2018目標	2030年(マイルストーン)	2055年(最終のゴール)
売上高あたりCO <sub>2</sub> 排出量 (2005年度比)	▲55% ※	売上高あたりCO <sub>2</sub> 排出量を 2005年度比▲67%	売上高あたりCO <sub>2</sub> 排出量を 2005年度比▲80%
CO <sub>2</sub> 排出量(再生可能エネルギー相殺後) (2005年度比)	▲35% ※		
購入電力に対する再生可能 エネルギー発電割合	60% ※	購入電力量を上回る再生可能 エネルギー発電	グループCO <sub>2</sub> 排出量の ネット・ゼロの実現
CO <sub>2</sub> 削減貢献量	470万t-CO <sub>2</sub> ※	新築建物の使用時CO <sub>2</sub> 排出量のネット・ ゼロ(戸建は2025年)	CO <sub>2</sub> 排出ゼロの街づくりの普及

SDGsへの貢献  
※詳しくはP121参照



7.2  
7.3



11b



13.1  
13.3

※2016年度の実績が2018年度目標を上回ったため、2018年度目標を上方修正しました。

095 DaiwaHouseGroup Sustainability Report 2017

エンドレス グリーン プログラム 2018		環境長期ビジョン“Challenge ZERO 2055”		
管理指標	2018目標	2030年(マイルストーン)	2055年(究極のゴール)	
売上高あたり建設廃棄物排出量(生産)(2012年度比)	▲4.0% ※	住宅・建築物のライフ サイクルにおける廃棄物の ゼロエミッション	全事業において廃棄物の ゼロエミッション	
施工面積あたり建設廃棄物排出量(新築)(2012年度比)	▲27.0% ※			
リサイクル率	生産			95%以上
	新築			
	土木			
	解体			
改修	85%以上			
売上高あたり水使用量(2012年度比)	▲24.0% ※	サプライチェーンを通じたグローバル水リスク管理		
長期優良住宅認定率	90%	住宅・建築物の長寿命化		
システム建築重点用途採用率	32% ※			

SDGsへの貢献  
※詳しくはP121参照



11.3  
11.6



12.2  
12.4  
12.5

※対象範囲の見直し等に伴い目標値を修正しています。

109 DaiwaHouseGroup Sustainability Report 2017



# SDGs実現への行動をすすめる発想（企業・自治体）

1. SDGsは2030年の世界のカたち
  - 現状とのギャップこそがビジネスチャンス
  - 未来を先取りすることでメリットを：将来の標準を先取り
  - 17の視点へと視野を広げることでチャンスも拡大
2. 中長期経営計画/自治体総合計画／基本計画への反映
  - SDGs課題の解決が中長期的に社会的要求の高い課題
3. リスクへの対応
  - マネジメントリスク・レピュテーションリスク
4. 商品・製品・市場の開拓
5. 投資を呼び込む
  - サステイナブル投資が急増傾向
6. SDGsリーディングカンパニー・自治体としてのブランディング・宣伝効果
  - 2017年日本政府がレビュー報告、2019年は国連での首脳級レビュー
7. 指標の設定
  - 社内→業界→世界的認証／標準化制度構築
  - 表彰や優良事例／トップランナー制度による誘導

15:42

event.rakuten.co.jp

R

未来を変える買い物を。  
**EARTH MALL** with Rakuten

EARTH MALLって何? カテゴリーから探す 未来を変える読み物 認証ラベルを知ろう

楽天市場トップ EARTH MALL



未来を変える読み物

👤 **キュレーターPicks!** EARTH MALL キュレーターとは

EARTH MALL キュレーターが 未来を変える商品を紹介

**EARTH MALL**キュレーター  
**末吉里花さん**  
一般社団法人エシカル協会 代表理事  
慶應義塾大学総合政策学部卒業。TBS系『世界ふしぎ発見!』のミステリーハンターとして世界各地を旅した経験を持つ。フェアトレードやエシカルを中心に活動を展開し、日本全国の企業や高校、大学などで講演、各地のイベントでトークショーを行う。



< > 📄 📖 📄

楽天市場トップ > Earth Mall

いいね! 134

未来を変える買い物を。  
**EARTH MALL** with Rakuten



## スローガン

「未来を変える買い物を」

## 商品

- 国際認証を受けた商品が買える
- キュレーターの皆様が選んだ商品が買える

## 記事

- サステナブルな商品やライフスタイルを知る

### MSC認証

水産資源や海洋環境を守って  
獲られた水産物



### ASC認証

責任ある養殖によって  
生産された水産物



### FSC認証

適切に管理され  
た森林の木材



### 国際フェアトレード認証

フェアトレード商品



### RSPO認証

持続可能なパーム油



### GOTS認証

オーガニック・テキスタイル



ここでも「サステイナブルな商品」「SDG12にかなう商品」とは何かという基準は今後必要

# SDGs実現への行動をすすめる発想（企業・自治体）

1. SDGsは2030年の世界のカたち
  - 現状とのギャップこそがビジネスチャンス
  - 未来を先取りすることでメリットを：将来の標準を先取り
  - 17の視点へと視野を広げることでチャンスも拡大
2. 中長期経営計画/自治体総合計画／基本計画への反映
  - SDGs課題の解決が中長期的に社会的要求の高い課題
3. リスクへの対応
  - マネジメントリスク・レピュテーションリスク
4. 商品・製品・市場の開拓
5. SDGsリーディングカンパニー・自治体としてのブランディング・宣伝効果
  - 2017年日本政府がレビュー報告、2019年は国連での首脳級レビュー
6. 投資を呼び込む
  - サステイナブル投資が急増傾向
7. 評価・指標の設定
  - 社内→業界→世界的認証／標準化制度構築
  - 表彰や優良事例／トッパー制度による誘導

# 企業行動評価／SDGs認定 を行う上では・・・

1. Goal-based Governance : 目標設定からスタート
  - SDGs (の考え) に基づく目標があるかどうか？
2. Indivisible Whole : 17視点から総合的に考えること
  - 少なくとも「経済」「社会」「環境」各分野の持続可能性を考えたアクションとなっているか？
3. 測る
  - 目標の進捗を測っているか (ビッグデータなど新たな測り方の可能性も含めて)

# 関東経済産業局／長野県の取組

## SDGs推進企業を認定する

SDGs企業たる企業活動



SDGs企業としてのフィロソフィー  
や実績

## SDGs企業たる企業活動の基準

- 目標にコミットしているか？【1】
- 経済・社会・環境面で（あるいはそれらを統合した）目標があるか？【2】
  - ✓ 「コミット」をどう測るか？制度設計で測る？
- 目標進捗を測っているか？【3】
  - ✓ 進捗が芳しくない場合どうするか？

## SDGs企業としての実績

- 「SDGsに向かっている」ことを示す最低限の実績をチェック
- 認証制度でこれらを代替できる可能性もある

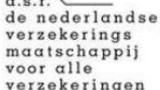
### <認定企業イメージ>

ex. 印刷中小企業者が、[FSC森林認証紙やノンVOCインキ（石油系溶剤0%）を使用した環境印刷に取り組む](#)とともに、[\[4か国語版お薬手帳\]等のSDGsを意識した新製品開発も実施](#)。さらには、[非正規労働者から正規労働者への登用制度を設け、従業員が活躍できる職場環境を整備（職場いきいきアドバンスカンパニー制度認証取得で代替可）](#)している。

# オランダ中央銀行によるSDGsインパクト測定 ワーキンググループのメンバー

## 6. Working Group members

The organizations below propose the core set of indicators for quantifying positive impact for further discussion among a wider set of experts and professional networks.

	 Achmea Investment Management	 THE RESPONSIBLE INVESTOR	
 a.s.r. de nederlandse verzekering maatschappij voor alle verzekeringen	 Entrepreneurial Development Bank		
			
	 Rabobank	 The Investment Engineers	
		 Unilever	

# オランダ中央銀行によるSDGsインパクト測定ワーキンググループによる成果（インパクト指標）（2018年10月4日現在）

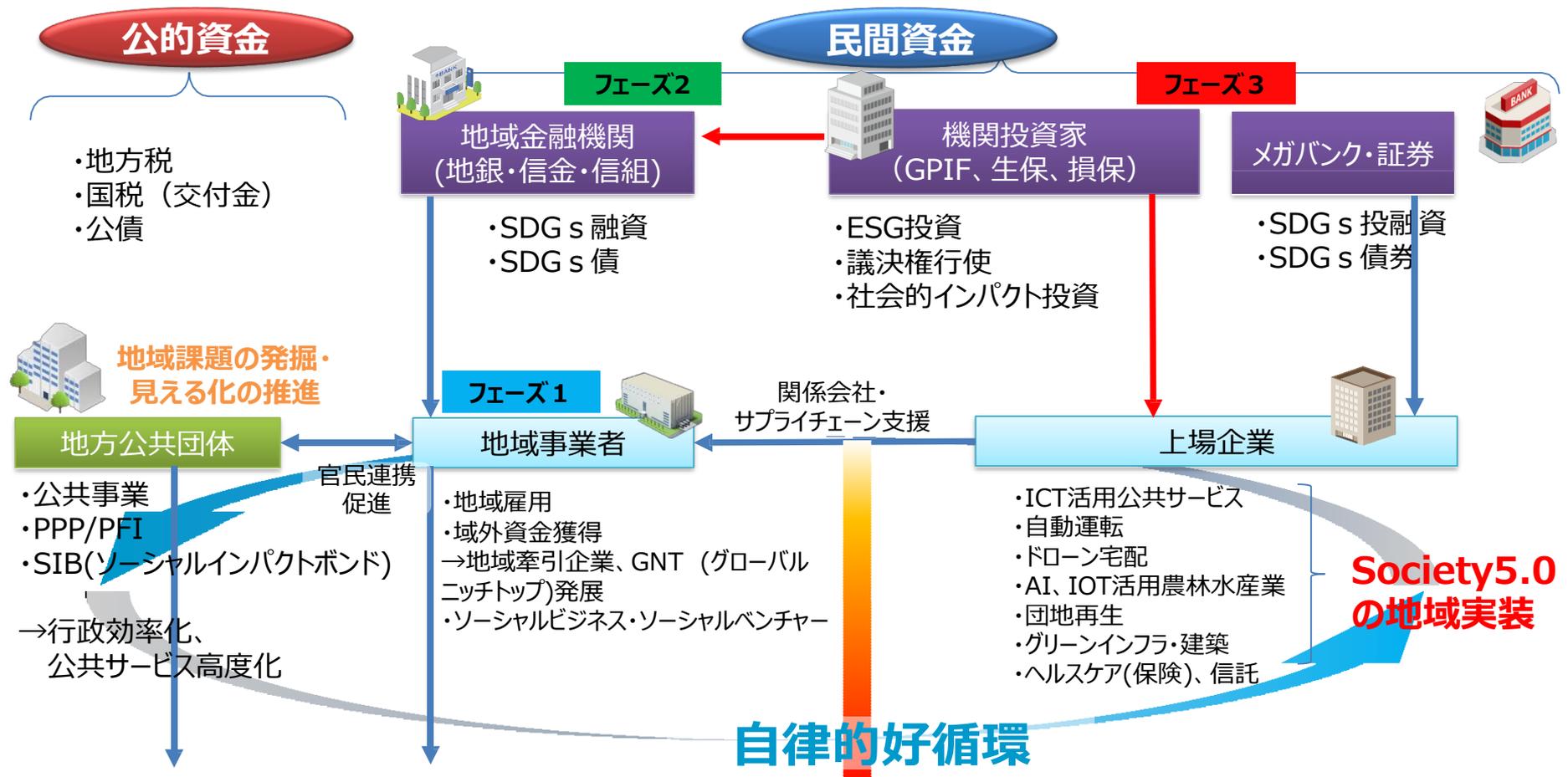
## 5. Impact indicators per SDG

	Product (or service) Impact indicator (PI) or Operational Impact indicator (OI, in italics)	Breakdown to gender (G), vulnerability (V), income group (I) or location (L), according to UN (☑) or Working Group (✓)				Unit of measurement for aggregation
		G	V	I	L	
 1 NO POVERTY	1.1 % of revenue from products serving low income groups			✓		€
	1.2 Number of people provided with access to financial services, incl. microfinance	☑ <sup>18</sup>	☑	☑	☑	# people
 2 ZERO HUNGER	2.1 Number of people provided with safe, nutritious and sufficient food					# people
	2.2 Ecologically sustainable agricultural production per hectare		☑			tonnes
	2.3 % avoided harvest, transport, storage losses					tonnes
	2.4 % products with certified improvements in nutritional value					€ (from % revenues)
 3 GOOD HEALTH AND WELL-BEING	3.1 Number of people reached with improved health care	☑ <sup>19</sup>		☑		# people
	3.2 Cost reduction for standard treatments and medicines					€
 4 QUALITY EDUCATION	4.1 Number of people receiving education services (split pre-school, primary, secondary, tertiary, vocational)	☑ <sup>20</sup>	☑			# people
	4.2 % students attaining standard for education level					# people
	4.3 Education facilities for inclusive and effective learning environments					m2
 5 GENDER EQUALITY	5.1 % women in workforce (full-time equivalent), employed at equal pay (OI)	☑				# people

<b>6</b> CLEAN WATER AND SANITATION 	6.1 Number of people provided with safe and affordable drinking water			✓	# people
	6.2 Number of people provided with adequate and equitable sanitation	☑		✓	# people
	6.3 Volume of water saved			✓	m3
	6.4 Volume of wastewater treated for reuse				m3
<b>7</b> AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY 	7.1 Renewable energy produced				MWh
	7.2 Avoided greenhouse gas emissions				tonnes CO <sub>2</sub> eq
	7.3 Number of people with access to affordable, reliable and modern energy services			✓	# people
<b>8</b> DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH 	8.1 Number of loans, deposits or insurance products in line with SDGs			✓	# people or €
	8.2 Number of jobs created (full-time equivalent) (OI)				# people
	8.3 % of employees earning living wage (OI)	✓		✓	# people
<b>9</b> INDUSTRY, INNOVATION AND INFRASTRUCTURE 	9.1 Length of sustainable road construction with equitable access			✓	km
	9.2 Length of rail construction				km
	9.3 Number of first-time internet connections	☑ <sup>21</sup>		☑	# people
	9.4 R&D expenditure in line with SDGs, as % of sales (OI)				€
<b>10</b> REDUCED INEQUALITIES 	10.1 Number of jobs created (full-time equivalent) in low-income areas, among disadvantaged groups, incl. minorities, refugees (OI)	☑			# people
	10.2 Number of local SME suppliers and smallholder farmers in supply chain (OI)	☑			# people
<b>11</b> SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES 	11.1 Number of people with access to safe, affordable and sustainable housing		✓		# people
	11.2 Number of people with access to sustainable transport systems				# people
	11.3 Floor space of green real estate				m2

Source: [Dutch Central Bank \(2018\) "SDG Impact Indicators: A guide for investors and companies"](#)

<b>12</b> RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION 	12.1 Avoided resource waste					tonnes
	12.2 Avoided emissions to air (other than greenhouse gases)					tonnes
	12.3 Avoided emissions to water					tonnes
	12.4 % input materials sourced sustainably or recycled (OI)					tonnes
	12.5 Reduction of hazardous materials used (OI)					tonnes
<b>13</b> CLIMATE ACTION 	13.1 Water storage capacity					m3
	13.2 Flood-resilient floor space					m2
	13.3 High-risk assets with climate insurance cover				✓	€
<b>14</b> LIFE BELOW WATER 	14.1 Avoided or reduced marine and fresh water pollution (ecotoxicity, eutrophication)					km2
	14.2 % of biodiversity loss avoided or reduced					# species
<b>15</b> LIFE ON LAND 	15.1 Avoided or reduced land pollution (ecotoxicity, acidification, salinization, transformation)					km2
	15.2 % of biodiversity loss avoided or reduced					# species
	15.3 Certified afforested or reforested land					km2
<b>16</b> PEACE, JUSTICE AND STRONG INSTITUTIONS 	Not directly investible					
<b>17</b> PARTNERSHIPS FOR THE GOALS 	Not directly investible					



**地域の社会的課題を解決する企業・事業の拡大**  
 ① 少子高齢化の下での地域経済の活性化 ② 女性、高齢者、障がい者活躍支援 ③ 災害に強いまちづくり

# 地方創生SDGs達成に向けた取組の一層の推進

# 熊本地震からの回復企業の特徴 －SDGs「的」なことをやっている－

マーケティング	明	暗
1. 市場	△	△
2. 商品	△	△
3. チャンネル等	△	△

イノベーション	明	暗
1. ICT活用	△	△
2. 生産技術	△	△
3. チャンネル	△	△
4. 異業種連携	△	△

地域社会の持続可能性	明	暗
1. 働き方改革	○	×
2. 社会との一体感	○	×
3. 環境への配慮	○	×

### 3. 解決の方向性

- 地震によって一変した外部環境への適応の優劣が、売上回復の明暗を分かち、その優劣は、「働き手」「環境」等への配慮が決め手となっていた。
- これは、マーケティングやイノベーションといった経済合理性の追求とは異なり、規模や業種の違いを超えた共通の経営課題である。
- そこで、売上回復に向け、異業種連携して課題解決に取り組むことを提案する。弊研究所は、その具体的手段として、「事業ニーズ共有化システム」を、HP上で提供している。



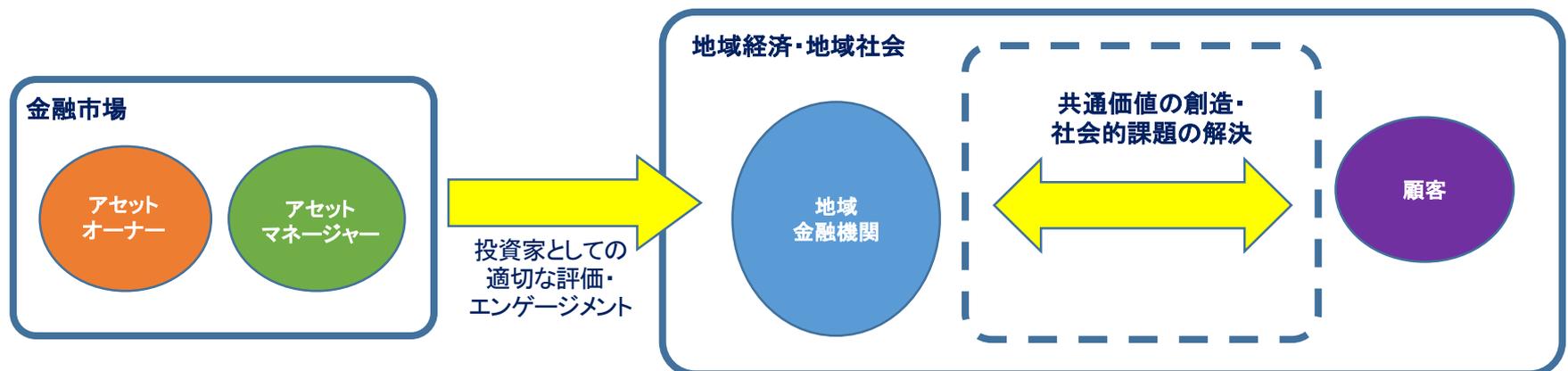
## 地域金融機関による顧客との「共通価値の創造」



- 足許、多くの地域金融機関にとって、長期化する低金利環境等の厳しい経営環境の下、**持続可能なビジネスモデルの構築**に向けた組織的・継続的な取組みが必要とされている
- こうした中、地域金融機関が顧客のニーズを捉えた付加価値の高いサービスを提供することにより、安定した顧客基盤と収益を確保する取組み（「**共通価値の創造**」）がより一層重要性を増しており、これは、**民間企業も社会的課題解決を担う主体と位置付けるSDGsの考え方と軌を一にするもの**



- 金融庁としては、**地域金融機関による事業性評価に基づく融資や本業支援**の取組みなどを引き続き促進
- また、金融市場においては、**機関投資家**が対話を通じて、こうした地域金融機関による共通価値の創造に向けた取組みを支援・促進する役割を果たすことが期待される





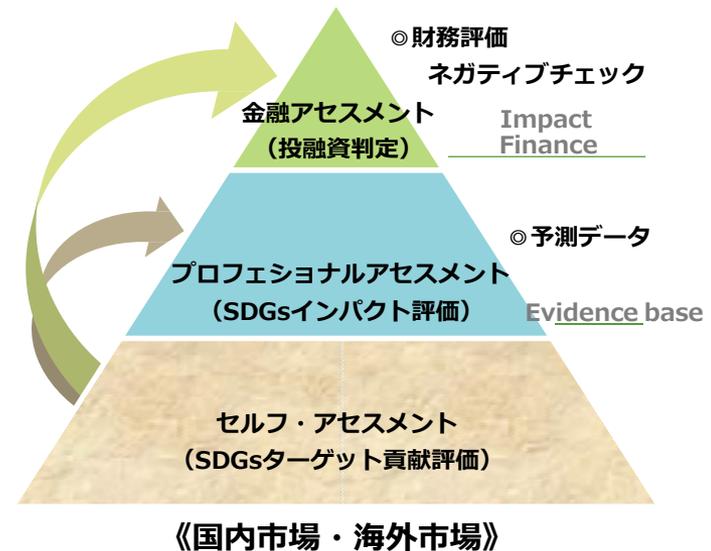
# xSDGコンソーシアム金融プラットフォーム分科会

## SDGsビジネスを加速させる仕組み

事業（プロジェクト）ベースの

SDGsによる

インパクト評価



# 金融xSDG

## 1. Goal-based Governance : 目標設定からスタート

➤ 地球の現状・今後への理解

## 2. Indivisible Whole : 17視点から総合的に考える

➤ 科学技術・イノベーションは整合的行動へのカギ

## 3. 測る

➤ SDGs達成に貢献する事業への投資

➤ 1. 2. をベースにした評価

